

目指す子ども像 ふるさとを愛し、心豊かでたくましい子ども



東目屋地区コミュニティ・スクール通信



第3号 平成29年4月18日 東目屋小・中学校 文責(佐藤)

平成29年度
スタート

小中一貫教育システムに向けて



4月6日に小学校、中学校でそれぞれ入学式が行われ、平成29年度がスタートしました。小学校の児童数は全部で61名、中学校の生徒数も61名となりました。(偶然!)

今後、小中一貫教育システムの構築に向けていろいろと取り組んで参ります。児童生徒の交流については、4月11日にあいさつ運動を行いました。他にも数回実施したいと考えております。また、合同の全校集会を8月までに2回計画しています。

教員の交流としては、5月17日に中学校で授業公開をします。今年度は授業づくりの共通課題として、「授業における子ども同士の関わり方」について取り組んでいきます。

地域とともにある学校づくり

お世話になりました 除雪助かりました

まだ学校全体が真っ白だった3月5日。開始予定時間は午前9時だったにもかかわらず、8時には除雪作業が始まりました。保護者の方はもちろん、重機を所有する地域の方までもが協力してくださいました。作業に携わった方々の思いは1つ。小学校を卒業し中学校へ進学する6年生11名が、春を感じて卒業してほしいという思いでした。

学校に通う子どもたちのために、保護者と地域と教員とが力を合わせた活動です。すでに、コミュニティ・スクールの理念は、小学校で何年も前から実践されています。



校庭にあった雪を片づけているところ

コミュニティ・スクール Q&A

■ コミュニティ・スクールは全国的にどのくらい設置されているのですか

46都道府県で **2,806校** が指定を受けています。(H28.4.1現在)

青森県では、昨年度十和田市教育委員会が大深内地区の3校(大深内中学校、洞内小学校、松陽小学校)を県内初のコミュニティ・スクールとして指定しています。

全国での成果

- ・小中学校間や学校・家庭・地域間の垣根が低くなり、協働体制が生まれています。
- ・学校に対する理解が深まり、学校や地域の人たちが元気になっています。
- ・子どもが地域の魅力に触れ、地域への愛着や誇りが芽生え、ふるさとへの意識が生まれています。

農園作業スタートしました

4月10日 農園の枝剪定



今年度の農園活動が始まりました。4月10日、9時～11時まで、保護者や地域の方13名のご協力で枝の剪定作業を行いました。まだ、農園には雪が残っていましたが、天気が良くて岩木山がきれいに見えていました。ネズミによる幹への被害が1本ありましたが、作業は順調に終了しました。ありがとうございました。

農園におけるりんご栽培学習は、本校の特色であり、創立以来70年にわたって受け継がれてきた教育活動です。これからも薬剤散布、草刈り、バヤキリなど秋の収穫までいろいろとお世話になります。なにとぞよろしくお願いたします。

東京でも応援しているよ！

修学旅行でりんごPR活動に対して
「東京目屋会」の皆さんから



事務局長 西沢良男さんから
激励の言葉



全員で記念撮影

4月12日(水)修学旅行の1日目、14:00～15:30 東京の浅草ビューホテル前の国際通りでりんごPR活動を行いました。その際、「東京目屋会」の方が6名応援に駆けつけてくださいました。「東京目屋会」の方は、毎年りんごPR活動に来ていただき、子どもたちを励ましてくれます。子どもたちにとっては目屋出身の大先輩ということで頼もしい存在です。「東京目屋会」の皆さんありがとうございました。

教育自立圏 研修会 開催

4月24日(月)
中学校図書室18:00～19:00

弘前市が目指している教育自立圏(小中一貫教育システムとコミュニティ・スクール)について、講演を予定しております。講師は弘前市の教育自立圏のアドバイザーである高橋興氏(青森中央学院大学教授)をお願いしております。高橋先生は著書に『学校支援地域本部をつくる』『小中一貫教育の新たな展開』などがあるように一貫教育やコミュニティ・スクールについて大変詳しく、全国のいろいろな事例もご存じなので、今後の目屋地区の取り組みを考えるうえで参考になるお話を聴くことができると思います。保護者や地域の皆さんどうぞ学校へお越しください。